

被災地の復興を願って VI

～北九州市・平成28年熊本地震の支援活動～

(平成28年4月～平成29年3月)

平成29年4月

北九州市

はじめに

「平成 28 年熊本地震」では、4 月 14 日の 21 時 26 分と、その約 28 時間後の 16 日 1 時 25 分の二度にわたり、熊本地方で震度 7 の強い揺れを観測し、熊本県内を中心に、200 名を超える死者が出るなど甚大な被害が発生しました。

犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

また、今回の地震に際しては、これまでに、市民の方や企業・団体の皆様からの義援金が 1 億円を超えるなど、多くの善意が寄せられていることに、感謝申し上げます。

北九州市では、地震による被害の大きさから、継続的な支援が行える体制を構築するため、「平成 28 年熊本地震北九州市支援本部」を立ち上げ、全市を挙げて被災地支援を進めてきました。

14 日の地震発生直後から現地入りした緊急消防援助隊による救助活動を始め、避難者・避難所への支援や生活再建に向けた支援など、被災地の様々なニーズに対応しながら、これまで延べ 1,000 名以上の職員の派遣や、必要な物資の提供などを行ってきました。

また、本市に避難された被災者の方々に対しては、市営住宅等での受け入れのほか、見舞金の支給などの生活を支える支援にも力を入れてきました。

更には、被災地では復旧・復興が本格化し、人材の確保が困難となっていることから、本市から熊本市、嘉島町、益城町に計 8 名の職員を長期間派遣し、現在も復興支援にあたっています。

一方、本市の防災体制についても、今回の熊本地震での教訓などに基づき、支援物資の受入れ・配送体制の強化や、車中泊避難者への支援などについて、地域防災計画の修正を図りました。また、避難所支援の経験等を踏まえて、「避難所運営マニュアル」の改訂や、備蓄物資の充実にも取り組んできました。

この報告書は、地震発生から 1 年間における、行政の取組を中心とした支援活動を取りまとめたものです。被災地での支援活動を経験した市職員によるレポートや座談会での報告等を収録しています。

こうした貴重な経験を、職員一人の記憶にとどめることなく、広く共有し、今後の防災対策の充実に活かしていきたいと考えております。

被災地の本格的な復興は始まったばかりであり、まだまだ長い道のりが続きますが、本市として、今後もしできる限りの支援を続けてまいります。被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

北九州市長 北橋 健治